

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
中間配当を行う場合 毎年9月30日
(その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。)

公告方法 電子公告の方法により行います。
ホームページアドレス <http://www.honyakuctr.com>
ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店
ならびに日本証券代行株式会社の本店および
全国各支店で行っております。

上場証券取引所 大阪証券取引所
JASDAQ スタンダード

証券コード 2483

・住所変更等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の
口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

・未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

見直しに関する注意事項

この報告書には、翻訳センターグループの将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれております。これらの記述は過去の事実ではなく、当社が現時点で入手可能な情報から判断した見込みであります。世界経済の動向、税制や諸制度などに関するリスクや不確実性を際限なく含んでおり、実際の業績や結果は当社の見込みと異なる可能性があることをご承知おきください。

個人投資家向け会社説明会 開催案内

【東京】

開催日 **2012年2月21日 (火)**
時間 13:35～
会場 東京証券取引所ビル6F
日本証券アナリスト協会
第1セミナールーム
定員 200名 (参加費無料)

【大阪】

開催日 **2012年3月6日 (火)**
時間 14:40～
会場 TKP大阪淀屋橋
カンファレンスセンター
定員 130名 (参加費無料)

【お問合せ・お申込み先】

【東京】

㈱日本証券アナリスト協会
TEL 03-3666-1632
E-Mail i-kaisai@saa.or.jp

【大阪】

㈱日本証券アナリスト協会
大阪支部
TEL 06-6231-6234
E-Mail s-osaka@saa.or.jp

HPアドレス <http://www.saa.or.jp>



株式会社 翻訳センター

お問合せ先 本社
〒541-0046
大阪市中央区平野町2丁目5番8号
平野町センチュリービル9F
Tel: 06-6204-1640
e-mail: info@honyakuctr.co.jp

第26期 中間期のご報告

2011年4月1日 ▶ 2011年9月30日





産業翻訳を取り巻く事業環境の変化や顧客ニーズに迅速に対応し、着実なシェアアップを図ってまいります



第26期上半期の業績について

この第26期上半期における日本経済は、前期末直前に発生した東日本大震災の影響を受けたサプライチェーンの立て直しによる生産活動の回復が進み、持ち直しの動きが見られました。しかし、欧州の財政危機による円高の進行や海外景気の下振れリスクへの懸念から、今後の景気動向は不透明感が続いております。

このような環境の下、当社グループの第2四半期連結累計期間の業績は売上高2,502百万円（前年同期比13.9%増）、営業利益150百万円（前年同期比42.1%増）、経常利益148百万円（前年同期比53.5%増）、四半期純利益79百万円（前年同期比37.1%増）となりました。

業績予想修正について

東日本大震災によって日本全体は未曾有の被害とインフラの混乱に見舞われました。前期末にかけて緩やかな回復傾向にあった国内景気は、一転して先行きを見定めるのが非常に困

難な状況となり、不透明感が増す中で第26期は始まりましたが、当社グループでは顧客企業の動向を注視し、情報収集ときめ細やかな対応に努めてまいりました。

4月に工業分野の一部の顧客から発注時期延期の要請があり、震災の直接的影響による売上低迷を懸念しておりましたが、顧客企業への継続的かつ積極的な営業活動を展開した結果、第26期上半期の進捗は計画を上回り推移いたしました。これにより、2011年5月11日の決算発表時公表の連結業績予想を9月30日に変更いたしました。なお、期末の連結業績予想は、売上高5,300百万円（前期比11.4%増）、経常利益350百万円（前期比29.5%増）、当期純利益180百万円（前期比28.8%増）を見込んでおります。

下半期に向けての課題や計画、今後の見通しについて

東日本大震災からの復興が続く中、国内景気は持ち直しの動きがあるものの、欧州の財政危機による円高の進行や海外景気の下振れリスクなど、景気動向は依然として不透明感が続い

ております。また、電子書籍の市場拡大、改正特許法の施行決定や米国特許法の大幅改正が可決されるなど、今後の産業翻訳市場への影響を予期させる事柄もありました。産業翻訳業界においては、ITツールの導入・翻訳支援ツールの活用による短納期化・高品質化の傾向が高まっております。

当社グループにおいても、翻訳支援ツールの使用が義務付けられた案件や指定のITツールを使用した案件、ウェブサイトの翻訳から管理業務までを請け負う案件など、これまでの「翻訳だけを請け負う」案件から、「翻訳を含めた包括的な作業が必要となる案件」、つまり、翻訳に付加価値をつけたサービスのニーズが増加傾向にあります。

当社グループといたしましては、品質安定と効率化に向けて開発した翻訳支援ツール「HC TraTool」を活用して収益力強化を図り、収益確保に努めてまいります。また、産業翻訳を取り巻く事業環境の変化や顧客ニーズに迅速に対応し、翻訳業界のトップ企業としての規模、組織力などの強みと特徴を活かして、着実なシェアアップを図ってまいります。

株主の皆様へのメッセージ

当社グループは、産業翻訳業界のリーディングカンパニーとして、顧客企業のグローバル展開を側面から支援するとともに、さらなる産業翻訳業界発展のため、当社グループの企業価値向上だけでなく、翻訳者の地位向上ならびに業界の認知度向上も志向し、産業翻訳業界のデファクトスタンダードを築くべく、日々邁進しております。

株主の皆様には、今後とも当社グループ事業および企業理念をご理解いただき、引き続きご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2011年11月

代表取締役社長

康 郁男

TOPICS

福岡営業所開設のお知らせ

昨今の九州・沖縄地域における翻訳ニーズ拡大に伴い、さらなる営業強化と拡販のため、2011年5月16日付で福岡営業所を開設いたしました。

名称：株式会社翻訳センター 福岡営業所（大阪営業部付）
所在地：福岡県福岡市博多区博多駅前3丁目6番12号オヌキ博多駅前ビル6F
TEL：092-432-5600
FAX：092-432-5608
営業所長：花田 仁（大阪営業部長兼任）
人員：所長含めて3名



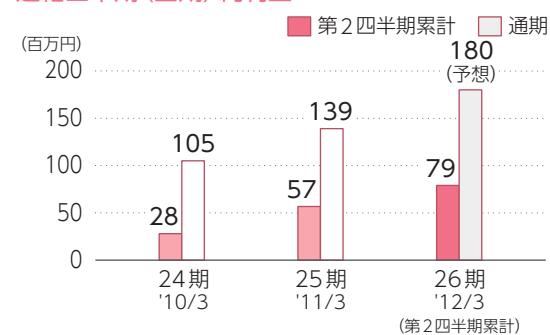
連結売上高



連結経常利益



連結四半期(当期)純利益



当第2四半期連結累計期間のポイント

- 売上面におきましては、特許分野の業績に明るい兆しが見えてきたことに加え、工業と医薬分野の業績が堅調に推移したことから、前年同期比13.9%増の2,502百万円となりました。
- 利益面におきましては、売上原価率の低減と販売管理費のコントロールが奏功したため、営業利益は前年同期比42.1%増の150百万円、経常利益は前年同期比53.5%増の148百万円、四半期純利益は前年同期比37.1%増の79百万円となりました。

分野別の概況

特許分野

当社グループの主要顧客である特許事務所からの受注増に加え、大手特許事務所や企業の知的財産関連部署の新規開拓が奏功したことから、売上高は前年同期比13.7%増の711百万円となりました。

医薬分野

メガファーマから獲得した新薬申請資料や治験関連資料など大型案件に加え、国内外の製薬会社を中心とした既存顧客への拡販が奏功したことから、売上高は前年同期比16.2%増の847百万円となりました。

工業分野

電力供給不足の影響は軽微にとどまり、自動車・部品メーカーからの受注がリーマン・ショック前の水準に回復し、通信企業やコンテンツ関連企業からの受注を獲得したことから、売上高は前年同期比16.4%増の615百万円となりました。

金融分野

ディスクロージャー関連、特に株主総会関連資料の受注が安定的に推移したことに加え、金融機関や法律事務所からファンド関連資料の受注を獲得したことから、売上高は前年同期比5.1%増の232百万円となりました。

四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位：千円)

科目	当第2四半期末 2011.9.30現在	前期末 2011.3.31現在
資産の部		
流動資産	2,650,476	2,708,638
固定資産	392,487	411,222
有形固定資産	55,013	30,685
無形固定資産	133,568	147,632
投資その他の資産	203,906	232,904
資産の部合計	3,042,964	3,119,860
負債の部		
流動負債	774,662	858,214
固定負債	136,522	140,954
負債の部合計	911,184	999,169
純資産の部		
株主資本	2,138,933	2,127,012
資本金	588,443	588,443
資本剰余金	478,823	478,823
利益剰余金	1,071,667	1,059,746
その他の包括利益累計額	△ 7,153	△ 6,321
その他有価証券評価差額金	△ 1,391	△ 1,017
為替換算調整勘定	△ 5,761	△ 5,304
純資産の部合計	2,131,780	2,120,691
負債・純資産の部合計	3,042,964	3,119,860

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結損益計算書(要旨)

(単位：千円)

科目	当第2四半期(累計) 2011.4.1~2011.9.30	前第2四半期(累計) 2010.4.1~2010.9.30
売上高	2,502,468	2,196,532
売上原価	1,396,584	1,256,499
売上総利益	1,105,883	940,033
販売費及び一般管理費	955,165	833,982
営業利益	150,718	106,050
営業外収益	895	402
営業外費用	2,813	9,539
経常利益	148,800	96,913
特別利益	—	287
特別損失	543	5,537
税金等調整前四半期純利益	148,256	91,663
法人税等	68,956	33,838
少数株主損益調整前四半期純利益	79,300	57,825
四半期純利益	79,300	57,825

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：千円)

科目	当第2四半期(累計) 2011.4.1~2011.9.30	前第2四半期(累計) 2010.4.1~2010.9.30
営業活動による キャッシュ・フロー	1,409	134,080
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 19,309	△ 205,382
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 67,380	319,201
現金及び現金同等物に 係る為替換算差額	△ 156	75
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△ 85,437	247,974
現金及び現金同等物の 期首残高	1,489,283	1,062,186
現金及び現金同等物の 四半期末残高	1,403,846	1,310,160

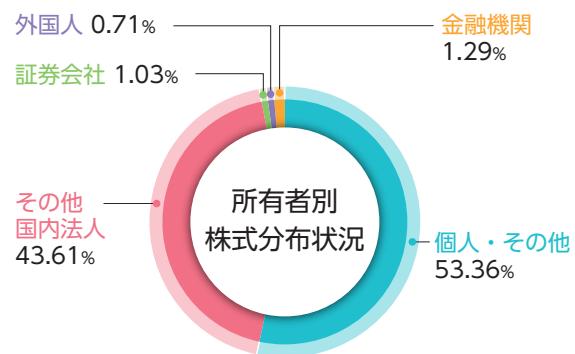
(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況 (2011.9.30現在)

発行可能株式総数	51,400株
発行済株式総数	16,845株 (自己株式はありません)
株主数	1,424名
大株主 (上位10名)	

株主名	持株数(株)
株式会社ウィザス	3,560
エムスリー株式会社	3,450
東 郁 男	724
池 亀 秀 雄	518
重 田 康 光	513
浅 見 和 宏	433
翻訳センター従業員持株会	361
岩 崎 泰 次	285
角 田 輝 久	273
二 宮 俊 一 郎	248

株式分布状況

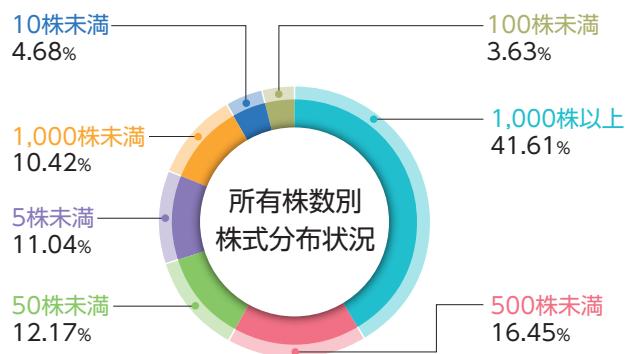


会社概要 (2011.9.30現在)

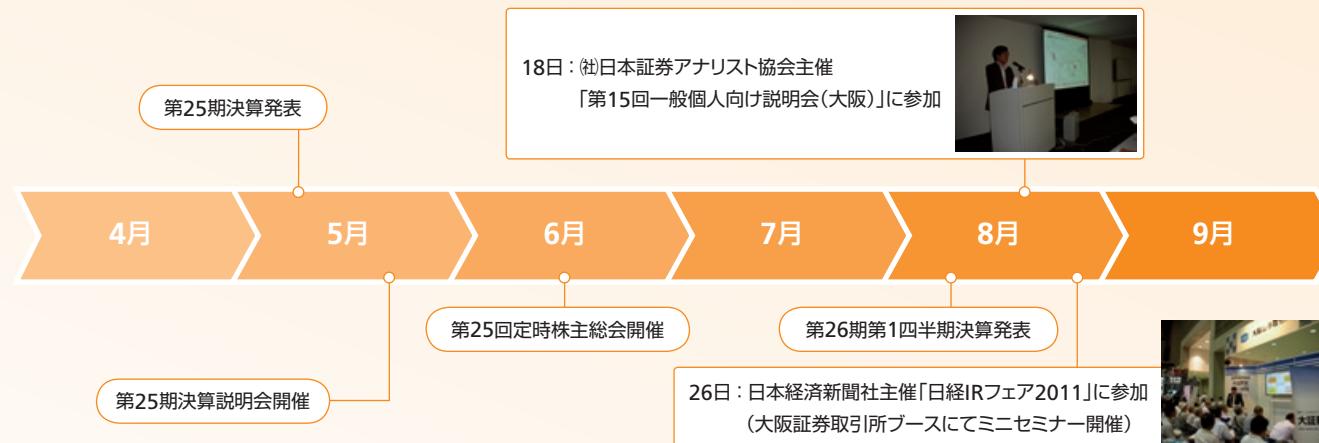
商 号	株式会社 翻訳センター
設 立	1986年4月
代 表 者	東 郁男
本 社 所 在 地	大阪府大阪市中央区平野町2丁目5番8号 平野町センチュリービル9F
資 本 金	5億8,844万3,000円
従 業 員	231名(連結)
事 業 内 容	翻訳サービス業
グループ会社	株式会社国際事務センター HC Language Solutions, Inc. 株式会社HCランゲージキャリア 株式会社外国出願支援サービス 北京東櫻花翻訳有限公司

役員

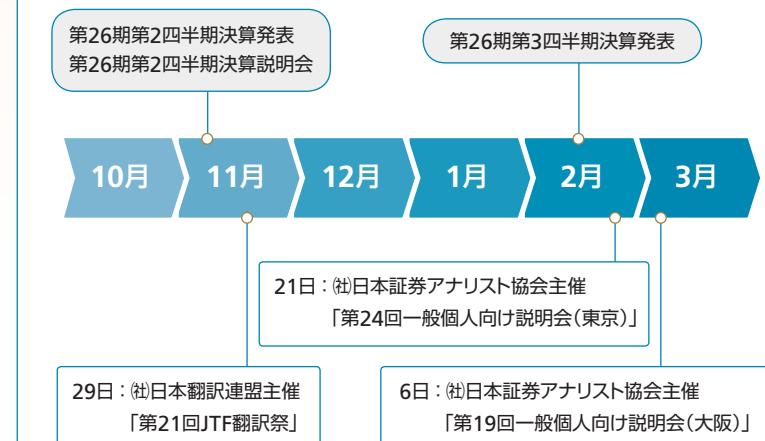
代表取締役社長	東 郁 男
取締役	二 宮 俊 一 郎
取締役	浅 見 和 宏
取締役	角 田 輝 久
取締役	中 本 宏
取締役	楠 見 賢 二
常勤監査役	橘 正 宏
監査役	妙 中 厚 雄
監査役	松 村 信 夫



2011年度上半期の翻訳センターの主なIR活動をご報告します。



2011年度下半期IRカレンダー



ホームページのご案内



当社ホームページにおきましても最新のトピックスをはじめ、様々な情報をご案内しております。

詳しくは ▶▶ 翻訳センター 検索

<http://www.honyakuctr.com>